



## TOM'S 工場に潜入! 今年の SUPER GT の 見どころを聞きました

静岡県御殿場市にあるTOM'Sテクニカルセンター。  
メカニックやエンジニアによりコンマ1秒でも速く走るマシン  
が開発・製作されています。取材当日は、ドライバーのシート合  
わせの日。エンジニアや監督に、SUPER GTとレクサス新型モ  
デルLCについてお話を聞きました。

TOM'S Engineer 小枝正樹



SUPER GTのルールとして、得点を重ねるとウエイトが積まれていきます。昨年は100キロまで積んでいましたが、今年GT500クラスはウエイトは50キロまでとなり、それ以上は燃料流量リストラクターの調整が加えられます。またダウンフォース(空気の流れによってマシンを路面に押し付ける力)が25%削減されます。それに伴い、フロントオーバーハングの50mm縮小、リアディフューザーの開口部面積縮小、リアウイング幅1900mm、いわゆる富士仕様のリアウイングに統一、フロントスポイラーも縮小されています。これが大きな変更点ですね。

このようなレギュレーションを取りながら、今年のレクサスの新型LCは、昨年のRCFに比べてかなりスマートでカッコいい印象になっています。ラップタイムも順調で、ライバルに差をつけることができているのではないかと思います。

**速報**

3/18(土)・19(日)公式テスト in 岡山国際サーキット  
**公式テストで最速タイムを記録!  
2日間連続で総合トップタイム!**

初日、開始から約1時間、37号車が1分18秒149を刻んでトップを奪い、そのまま総合トップを獲得。3番手には36号車「au TOM'S LC500」が浮上し、1分18秒346をマーク。さらに2日目、37号車は常に上位につけ、開始1時間でキャンディ選手が1分18秒395をマーク。トップに立ち、2日連続で総合トップタイムを獲得。これに38号車が続き、LEXUS勢がワン・ツーとなった。

ダウンフォースは昨年  
に比べて25%削減。  
車体は少し低くなっ  
ている。

今年から富士仕様の  
リアウイングに統一。  
低抵抗であるためダウ  
ンフォースは少なめ。

私の仕事はエンジニアで、簡単に言えばドライバーとマシン性能の橋渡しという感じです。ドライバーのコメントを聞いて、マシンを調整していくことが大きな役割です。今シーズン、LCとしてどのような戦いが展開できるかをじっくり観ていた  
だいたいと思います。

TOM'S Director 関谷正徳



昨シーズンは、ミスが多かった。「あの時にああしなければ」というほんの小さな誤った判断が大きな事故をもたらします。風船が、細い針の先でパンと割れるみたいにね。それがドライバーだけじゃなく監督も同じです。突発的なことがあったときに興奮せず、感情的にならずに冷静に対応する力がドライバーにも監督にも必要です。

今年の36号車、37号車は面白いと思いますよ。36号車はベテランの域に達してきたジェームス・ロシターと中嶋一貴。そして37号車は平川亮とニック・キャンディの若手コンビ。ニックは昨年F3で、山下健太という早いドライバーを抜いての優勝を獲得していますから。この2台を見ているだけでもエキサイティングだと思います。

僕がドライバーにできることは、彼らが力を出し切れて楽しめる環境を作ることです。そしてもっと視野を広げて、日本のモータースポーツをもっとたくさんの人々に楽しんでもらうことです。日本のモータースポーツがイマイチ盛り上がり、に欠けるのはドライバー、

### 塗装が光沢を出して、 新車感が続くね。

去年の夏前くらいに、ダイヤモンドキーパーを施工して以来、全然洗車しなくなったね。雨が降るとキレイになっちゃうから。塗装が光沢を出して、いつでも新車って感じがするね。汚れもべたつきとくことなくすぐに取れる。逆に車内の汚れが気になっちゃって、車内清掃もやってもらいたいね。

つまり人間にスポットが当たっていないからです。SUPER GTの他、日本のレースは、自動車メーカーやタイヤメーカーの方に多くスポットが当てられているのが現状です。でもスポーツにおいて、感動を与えられるのは人間じゃないんです。自動車やタイヤの性能といったハードのコンペティションだけでなく、純粋に個性あるドライバーのレーシングコンペティションのレースを両立すれば、日本のモータースポーツはもっともっと面白くなると思っています。

初心者の方のSUPER GTの楽しみ方としては、パンフレットなどを見て、好きなドライバーを3人くらいに絞ってその車だけを追ってみること。そうするとコーナーの曲がり方ひとつにしてもそれぞれの個性が出るのがわかってきます。そういう見方をすると感情移入ができるから断然面白いと感じることができると思いますよ!

SUPER GT 2017 始動!!



## 37号「KeePer TOM'S LC500」が翼を授かる! KeePerに加え、レッドブル・ジャパンがサポート



※デザインは3/15現在のものです。若干変更になる場合があります。

### 新型ラグジュアリークーペ「LEXUS LC500」を投入

国内最高峰のモータースポーツイベント「SUPER GT」に、2017年も37号「KeePer TOM'S LC500」として出場が決定。今シーズンは、従来のLEXUS RC Fに替わって、新たに採用される技術規則に合致した新型ラグジュアリークーペ「LC500」を投入。LEXUS GAZOO Racingとしては、6チーム、6台に支援を行うこととなった。

### ドライバーは平川亮選手とニック・キャンディ選手の若手コンビ!

SUPER GTのGT500クラスに37号「KeePer TOM'S LC500」と36号「au TOM'S LC500」の2台体制で参戦する名門チーム「トムス」(TOM'S)は、2月2日、レクサス(トヨタ)全体の2017年参戦体制発表にあわせて、自チームの今季詳細を公開。37号車「KeePer TOM'S LC500」は、KeePerに加えてレッドブル・ジャパンがサポートをすることに。

37号車「KeePer TOM'S LC500」のドライバーは、平川亮

選手とニック・キャンディ選手の若手コンビ。監督は、昨シーズンに引き続き、日本人初のル・マン24時間レース総合優勝者、関谷正徳氏。平川選手は日本人ドライバーとしては初めてレッドブルとアスリート契約を結ぶこととなる。新たな翼を授かった今シーズンの「KeePer TOM'S LC500」。どんなドライビングを見せてくれるのか、目が離せない。

### もう一台のトムス36号「au TOM'S LC500」に中嶋一貴選手を起用!

au(KDDI)から2年目のサポートを受けて参戦する兄弟車の36号「au TOM'S LC500」のドライバーは、3年ぶりにSUPER GTに復帰した中嶋一貴選手とジェームス・ロシター選手。また、昨シーズン36号車のハンドルを握った伊藤大輔氏が新たに監督に就任。伊藤監督は、ゴールデンウィークに開催されるSUPER GT富士戦を欠場する中嶋選手の代わりに、ドライバーとして参戦する予定だ。

### 2017年度 スーパーGT スケジュール

開幕戦 岡山国際サーキット(岡山県)	公式予選 4/ 8(土)	決勝 4/ 9(日)
第2戦 富士スピードウェイ(静岡県)	公式予選 5/ 3(水祝)	決勝 5/ 4(木祝)
第3戦 オートポリス(大分県)	公式予選 5/20(土)	決勝 5/21(日)
第4戦 スポーツランドSUGO(宮城県)	公式予選 7/22(土)	決勝 7/23(日)
第5戦 富士スピードウェイ(静岡県)	公式予選 8/ 5(土)	決勝 8/ 6(日)
第6戦 鈴鹿サーキット(三重県)	公式予選 8/26(土)	決勝 8/27(日)
第7戦 チャンピオンインターナショナルサーキット(タイ)	公式予選 10/ 7(土)	決勝 10/ 8(日)
最終戦 ツインリンクもてぎ(栃木県)	公式予選 11/11(土)	決勝 11/12(日)

※開催日程は他の世界選手権レースの開催予定が変更された場合、変更されることもあります

Web特設サイト



<http://www.keepercoating.jp/racing/>

KeePer TOM'S LC500の最新情報やレースのフォトギャラリーなど満載!



Facebookも  
チェック!

